

乳幼児の転落・転倒ヒヤリ・ハット調査を実施！

～乳幼児の転落・転倒 事故防止ガイドを作成～

日常生活における「ヒヤリ・ハット」を掘り起こすために、都ではインターネットアンケート調査を実施しています。今回は、乳幼児の転落・転倒に関するヒヤリ・ハット経験を調査し、その結果と転落・転倒防止のポイントをまとめた事故防止ガイドを作成しました。

1 調査結果

★ 転落・転倒した、しそようになった経験は、1歳時が最多！※

(報告書 P6)

乳幼児を持つ保護者 3,000 人に調査したところ、転落・転倒のヒヤリ・ハットや危害の事例が 2 万件超※もありました。なかでも、行動範囲が拡大し、好奇心も向上しはじめる 1～2 歳時の経験数が全体の 6 割を占めました。

※ 転落・転倒した、しそようになった複数の経験があるときは、最も危険な経験について回答を求めた。

★ 1～2歳は椅子類からの 転落・転倒に要注意！

(報告書 P7～8)

年齢別では、1～2歳は椅子やソファでの経験が上位を占めました。行動が活発になりだす3歳では、自転車の幼児用座席による事例が目立ちました。

【椅子】(報告書 P20)

◎兄と一緒にパソコンを見るため、椅子の上に立ち上がりバランスを崩して転倒した。

【自転車の幼児用座席】(報告書 P55)

◎自販機でジュースを買うため、自転車から少し離れたところ、子供が動いてバランスを崩し、自転車ごと倒れた。

★ 浴槽やベランダでのヒヤリ・ハットは、命に関わる大事故に！

(報告書 P34,44)

日常生活の中で、大事故につながりかねないヒヤリ・ハットが発生していました。

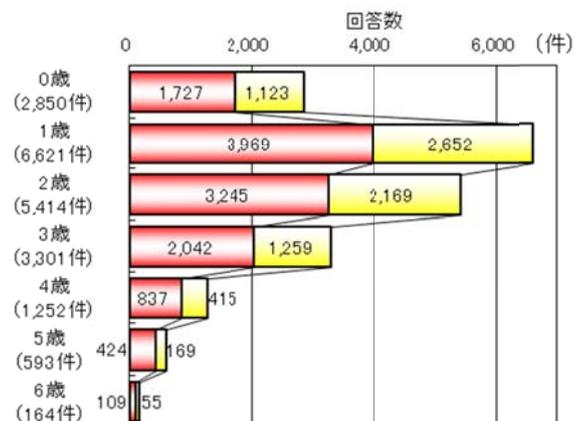
【浴槽】(報告書 P34)

◎親が洗髪していたとき、深さ10cm程度の湯船に子供を入れていたら、足を滑らせて溺れかけた。

【ベランダ】(報告書 P44)

◎登ることが好きで、ベランダの室外機の上に登ってベランダの柵につかまり、びよんびよん飛び跳ねていた。

★転落・転倒した、しそようになった時の年齢



■ 転落・転倒した経験がある
■ 転落・転倒した経験がなく、しそようになった経験はある



詳しい内容は、こちらをご覧ください。



<http://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/hiyarihat/>

【問合せ先】

消費生活部生活安全課商品安全係

電話 03-5388-3082

2 事故防止ガイドの概要

「乳幼児の転落・転倒 事故防止ガイド」では、危険な事例や年齢別に事故を防止するポイントをわかりやすく紹介しています。(サイズ:A4 8 ページ)

Point!
家中、家の外での危険な事例をイラストやまんがで紹介

Point!
年齢別の事故防止のポイントをわかりやすく紹介

3 今後の取組

「乳幼児の転落・転倒 事故防止ガイド」を、都内の消費生活相談窓口、保健所、保育所、幼稚園、病院等に配布し、都民への啓発に取り組むとともに、事業者団体等へ調査結果を情報提供します。

【インターネットアンケート調査概要】

◆乳幼児の転落・転倒による危険

調査対象: 東京都に居住する0～6歳(未就学児)の子供を持つ20歳以上の男女(3,000人)

調査時期: 平成26年1～2月

【参考】

◎ヒヤリ・ハットとは：
ケガはしないが転落・転倒した、しそうなった事例

★乳幼児に関する事故防止ガイド (既刊)★

WEBでもご覧になれます

幼児の身の回りの事故防止ガイド

乳幼児の誤飲事故防止ガイド

乳幼児のやけど事故防止ガイド